

「浴衣プロジェクト」では地元業者の依頼で新作浴衣のイメージポスターを作成。1月の寒空の下、浜北森林公園などで撮影を行った下／写真をチェックする部長(当時高校2年生)の清水彩香さんと顧問の大木島先生



「君にあいたくて」「届けたい想い」など胸キュンなコピーと、地元の風景。浜松の市街地をロケ地に、青春のワンシーンを切り取った甘酸っぱいポスターが完成した

まちなか部活推進プロジェクト

“まちなか全体が私たちの部室です!”がコンセプトの市民活動。高校生が学校を飛び出し、店主の似顔絵看板づくりや、まちなかガイドツアーなどを実施。これまでに浜松学芸、浜松開成館、西遠女子学園、浜松聖星、浜松市立、浜松北、第一学院が参加した。「まちなか胸キュンプロジェクト」はこの活動のひとつでもある。



土曜日の午後。この日は「まちなか胸キュンプロジェクト」のポスター用撮影の日。学校の真手にある、見晴らしの良い坂の途中の撮影場所へと向かう

ダ ブルデート!」「オレンジ!」「ツンデレ!」爆笑。黒板に貼り出した写真を見て、連想ゲームのように次々と仮タイトル案を出し合う部員たち。木曜日の午後、部活動の時間に開かれる編集会議はいつもこんな具合だ。中高一貫校なので、中学生と高校生と一緒に和気あいあいと活動に取り組んでいる。

浜 松学芸中学・高校では、生徒が興味のあるテーマを自由に設定して深く掘り下げる、「探究活動」と呼ぶ部活動を行っている。

「勝手に応援団」はその取り組みの一つ。浜松のいろいろな場所を調査して、地域が抱える課題の解決につながり、地域の魅力を発信したりする活動だ。

そ の第一弾は、天竜浜名湖鉄道の魅力を発信し地元愛を高める目的で行った「天浜線勝手に応援団」。

勝手に、といっても、もちろん天竜浜名湖鉄道からの許可は取り付けた。学校の制服姿の部員がモデルを務め、ノスタルジックな田舎の風景と甘酸っぱい青春を掛け合わせたポスターを全39駅分制作。その内容は地元紙やラジオ番組でも大きく取り上げられた。続く第2弾は「森林公園勝手に応援団」。浜北区にある県立森林公園の魅

力をアピールするためにカレンダーやフォトブックを制作。2017年には第3弾の「街中胸キュンプロジェクト」を始動した。

こ のプロジェクトは、浜松の市街地にある「胸キュンスポット」を高校生目線で掘り起こし、ポスターを30枚制作するという企画。友情や恋愛をテーマに掲げ、街中を舞台に青春時代の何気ない日常を表現しようと編集会議を重ねた。

これまでのプロジェクトと同様に、部員たちが事前に地域調査を行って候補地をロケハンし、撮影シートの状況設定を考案。カメラマン役だけは顧問の大木島祥弘先生にお願いしているが、モデルやディレクター役は部員が自ら担当する。撮影後は多数の写真の中からみんまで候補写真を選び、写真に添える胸キュンなキャッチフレーズを考えてポスターに仕上げていく。

地元の魅力を発掘・発見

静 岡県の人口減少率は全国トップクラス。地域の人口流出に歯止めをかけたい。高校生の感性で浜松の魅力をアピールし、地元就職やUターン就職を呼び掛けようというのがこの活動の狙いだ。掲げるテーマは2つ。

知っている。だけの場所を「行ってみたい」場所にいつか戻って来たいと思える地域の魅力を発信

見る人の共感を呼び起こすために、中学生には等身大の、大人には懐かしい青春を感じさせる演出で、地元に対する愛着を高めようとしている。

大 木島先生いわく、「勝手に応援団」は学校内にできた広告代理店。編集も請け負って、卓上カレンダーやフォトブックを制作する。その費用は原資として先生から融資してもらい、販売することで返却している。いわば、部長は「社長」、部員は「社員」、制作費用を融資する先生は「株主」の学内ベンチャー企業なのだ。事実、2016年に開催された「はままつ高校生ビジネスアイデアコンテスト」(浜松商工会議所青年部主催)では「天浜線勝手に応援団」が大賞に選ばれている。

生 徒たちは地域の魅力を発信しながら、経営や経済の仕組みも学びます。また、物事を見極める目や、社会での実践対応力を養うこともこの活動の目的です。実際に、この活動を始めてから生徒たちの意識が大きく変わりました。最初は指示を出さないと

動けなかったのに、今では率先して取り組んでいます」と大木島先生は話す。

わたしたちが浜松にムーブメントを仕掛けたい!

勝 手に応援団の活動は評判となり、地域社会から制作依頼が相次いでいる。民間会社の宣伝広報の仕事になるためクオリティーの妥協は許されない。今年も地場産業の浜松注染そのめの振興を図る団体から、新作浴衣の展示会用イメージポスターの制作を受注した。

新年早々、体じゅうにカイロを貼り付け、極寒の森林公園で撮影を敢行。部員7人に加え、クラスや他の部活動から「お手伝い部隊」が参加して、30種の柄の浴衣姿を撮影した。現場で走り回る部員たちのげた履きの素足は寒さで赤らんでいたが、それでもロケは終始にぎやかで楽しい雰囲気だった。

高 校卒業後に地元浜松での就職を希望する高校生は全体の2割。私たちの高校では生徒の9割以上が進学します。たとえ浜松を離れても、地元を誇りに思い、いつか戻って来たいと思ってもらえるようにムーブメントを仕掛けたい」と語る部員たち。さて、次は浜松のどんな「胸キュン」を発信してくれるのだろうか。